

1. 教科で育成したい資質・能力

①課題設定や探究方法の創造を行うために必要な、論理的思考の基礎力

- ◇他者の考えを理解する力
- ◇自分の考えを表現する力
- ◇自分の考えの道筋を振り返り、他の作品やことがらに応用する力

②協議に必要なコミュニケーションの基礎力

- ◇共有している認識を確認し、応用し発展させる力
- ◇個人の知識を他者と共有し認める力

2. 小論文指導

- ◇自分の考えを表現する力
- ◇共有している認識を確認し、応用し発展させる力
 - ・読書レポートや懸賞論文、長期休業中の「新書レポート」など生徒の成長度合いにあわせて、各年次で取り組む。生徒への提示の仕方や提出の仕方、その後の活用は各年次に任すが、小論文対策につながるように生徒保管を徹底する。

3. 「山月記」「こころ」「舞姫」などの生徒発表型授業

- ◇他者の考えを理解する力
- ◇自分の考えを表現する力
- ◇共有している認識を確認し、応用し発展させる力
- ◇個人の知識を他者と共有し認める力
 - ・教材を共有しつつ、本校での実践例を参考にしてプレゼンテーション授業を展開する。

4. ルーブリック自己評価の活用

- ◇自分の考えの道筋を振り返り、他の事象に応用する力
 - ・指導と評価を一体化し、メタ認知による創造的・論理的思考を高める。

5. 今後の取組

- 社会とつながりを持った思考やそれに必要なスキルの育成に取り組む。
- 非言語型表現を教材に取り入れ、生徒の理解や表現技法の育成に取り組む。
- 学習新指導要領、複数の資料を用いた入試問題に対応した授業や考査の作成を研究する。
- ルーブリック自己評価を活用する。
- ICTを活用した授業の研究を進める。
- 考査については、思考が深まる作問を行う。

<地歴・公民科が生徒に身に付けさせたい3つの力(理想の生徒像)>

多面的・多角的に考え、自分
なりの考えを作っていく力

能動的に課題に取り組み、
協働的に考えを進める力

探究的な問い
ICT の活用
ふりかえり
(自己評価)

学んだことを活用し、解決策
を考える力

1. 教科で育成したい資質・能力

①課題解決のために必要な実践力

- ◇環境、状況を把握し、プライオリティ（優先順位）を意識してセルフコントロールする力
- ◇前向きに取り組める自己指導力

②課題解決に必要なコミュニケーション力

- ◇自分の考え、根拠を説明する力
- ◇他者の考えを理解する力

③課題解決のために必要な論理的思考力

- ◇教科書の公式や解法を先人の取り組みとして正しく理解する力（道具）
- ◇目的、視点、見通し、手法のスマールステップを理解する力（使い方）

2. 自然科学を扱う教科・科目として

- 驚きと発見を体感させる。
- 課題発見・解決方法や論理的思考力を養う展開とする。
- 公式等を通して先人の業績を理解することで、問題解決の仕方を学ばせる。
- 数学が多くの自然科学の発達の礎になっていることから、社会に貢献しようとする姿勢を養う。
- 知識の構造化、様々な答えを引き出す問いの工夫により、作業（記憶）的な学習形態ではなく、思考がアクティブな学習形態（思考の広がり・深化）として展開する。
- コミュニケーション力を養うことを意識して、場合によってグループ協議の形態を取り入れる。

3. 今後の取組

- 取り組みに対する評価方法を充実させる。
- 教師評価、生徒自己評価に基づいた目標設定、授業展開を行う。
- 時限目標、チェック表や評価表は、具体性（イメージしやすい＝説明不要）をもたせる。
- ルーブリック自己評価を活用する。
- 考査については、思考が深まる作問を行う。
- ICT活用による「反転授業」等で授業改善を目指す。
- 生成A Iによる「別解」検索や個別の質問対応のシステムづくりを行う。

1. 教科で育成したい資質・能力

①課題設定や探究方法の創造を行うために必要な、論理的思考の基礎力

- 教科書を先人の取り組みとして正しく理解する力
- 目的、視点、仮説、手法のスマールステップを理解する力
- 教科書の内容や自然現象に疑問を持ち、知識や手法をつなぎ合わせて理解する力

②協議に必要なコミュニケーションの基礎力

- 実験の「仮説」「考察」をグループで話し合う力
- 根拠を示す力

2. 自然科学を扱う教科・科目として

- 驚きと発見を体感させる。
- 自然現象や科学者と対話する姿勢をもち、課題発見・解決方法や論理的思考力を養う展開とする。
- 先人の業績を推測、理解することで、自然現象の究明や理解の仕方を学ばせる。
- 自然の理解と共存の方法を想像し、社会に貢献しようとする姿勢を養う。
- 知識の構造化、問い立て、オープンクエスションの工夫により、作業(記憶)的な学習形態ではなく、思考がアクティブな学習形態(思考の広がり・深化)として展開する。
- クリティカルリーディング、クリティカルシンキングを取り入れる。
- コミュニケーション力を養うことを意識して、グループ協議の形態を取り入れる。

3. 実験・観察

- 実際に体験し、自然現象に対する科学者の課題発見・解決の方法や論理的思考を理解させる。
- 生徒実験においても「仮説」「考察」をグループで協議させる。
- データの活用方法を習得させる。
- 問題演習を通して、個々の現象を一般化することを体験させる。

4. 探究・課題研究活動

- 課題発見力や解決力、論理的思考力を総合的に養うために、長期休業を利用して取り組むことを推奨する。
- 総合的な探究の時間と連携する。
- グループでの問題演習にも取り組ませ、協働の姿勢を養う。
- 外部の講座やコンテストを紹介し、積極的に交流する姿勢を養う。

5. 今後の取り組み

- iPad を利用した授業展開、観察実験(予習、復習、評価を含む)を行う。
- 取り組みに対する生徒自己評価(ルーブリックの活用)を充実させる。
- 授業評価に基づいた目標設定、授業展開を行う。
- 時限目標、チェック表や評価表は、具体性(イメージしやすい=説明不要)をもたせる。
- 考査については、思考が深まる作問を行う。
- 生成A I の活用について研究・実践する。

1. 教科で育成したい資質・能力

生涯にわたり健康で豊かなライフスタイルを実現するための基礎を養う。

保 健：現代社会の健康課題や自らのライフステージにおける健康・安全について、主体的に学び健康の保持増進に向けて意思決定・行動選択ができる資質と能力を養う。

体 育：運動やスポーツを仲間と楽しく協働しながら運動技能の向上と体力の向上を図り、生涯にわたって合理的・計画的にスポーツライフを継続できる力を養う。

2. アクティブ・ラーニングの具体的取組

保 健：授業を通して各ライフステージにおける健康・安全について、ICTを活用した授業やペアワークやグループ学習を行いながら学習し理解を深める。また、心肺蘇生法の実習や健康講座などの講義を聴くことにより実生活に活かせるようにする。

体 育：1・2年次に多くの種目の基礎技能や知識を身につけ、2年次後半からの選択授業において、生徒が主体となり授業を進める。iPadでフォームや体の使い方をチェックしたり、ICTを活用して正しい動作の確認をしたりする事で、お互いに問題点や課題を話し合いながら内容を深め、生涯にわたりスポーツ活動が実践できるようにする。

3. 今後の取組

○評価の3観点と個人ノートやグループノートを活用したルーブリック評価を行う。

○生徒の体力の実態に応じた実施種目の選定や、学習指導要領に対応した授業の進め方の改善に取り組む。

○授業ノートのまとめや提出等はiPadを使用しGoogle Workspace for Educationで行えるようにする。

1. 教科で育成したい資質・能力

① 芸術を生涯にわたって愛好し、主体的に関わる力

古典から現代に至る多様な芸術表現に触れ、鑑賞・創作・発表の体験を通じて、芸術を生涯にわたって愛好する心情と主体的に関わる態度を育成する。

ICT 機器や生成 AI を活用したデジタル表現を積極的に取り入れつつ、生徒が自らの問いや関心に基づいて、現代の芸術文化に柔軟かつ能動的に関わる力を養う。

② 感性と創造力を高め、自己を表現する力

「心の教育」の中核を担う教科として、技術的な技能の習得にとどまらず、芸術的な見方、考え方を働かせ、芸術に対する理解と感性を深め、自己の内面を豊かに表現する力を育成する。

表現と鑑賞の両面を重視し、生成 AI との対話（壁打ち等）を通じて視野を広げ、生成 AI を鵜呑みにせず、自ら探究し、創造的思考を促進する。

③ 芸術文化への理解と多様性を尊重する態度

芸術作品の背景にある文化・歴史・精神性を理解し、他者の表現を尊重する態度を育成する。

素材・技法・様式の違いを超えて芸術文化の多様性を認識し、多様な価値観に触れる対話を通じて豊かな情操と共感力を養う。

2. アクティブ・ラーニングの具体的な取組

○個別最適な学び：自己の表現を深める制作活動

各自の興味・関心や進度に応じた制作活動を通じて、技術や表現力を高める。

音楽・美術・書道の3教科合同での合同発表会を行い、教科横断的な学びの機会とする。

○協働的な学び：創造的対話によるグループ制作

音楽・美術・書道の各教科でグループを編成し、共通テーマに基づく協働制作を行う。

異なる得意分野や視点を持つ生徒同士が、役割分担と対話を通じて、他者と共に創造する力と社会性を育成する。

○主体的・対話的な学び：自己肯定感と多様な視点の育成

対話を通じて自身の強みに気づき、他者と協力して一人では成し得ない作品の完成を目指す。

生成 AI を効果的に活用し、アイデアの広がりや視点の多様化を図り、自己肯定感を高める。

3. 今後の取組（3教科合同発表会の構想）

○音楽：音楽制作ソフト（例：ボーカロイド）を用いて自身の想いやイメージを込めたオリジナル楽曲を制作する。

○美術：iPad や Mac を活用し、アニメーションやショートムービーなどの映像作品を制作し、視覚的な効果や構成を探究する。

○書道：自らの想いを託すテーマに沿った言葉を選び、音楽・美術と連動した書道パフォーマンスを実施する。

○芸術科合同発表会：3教科の選択者が協働し、美術の映像に音楽を重ね、書道の表現を加えることで、芸術を通じた「驚き・喜び・感動」を共有し、作品を通じた教科を超えた対話と心の思い出を創造する。

1. 教科で育成したい資質・能力

- ①主体的・自律的なコミュニケーションをとるために様々な場面で英語に触れるなど、自立した学習態度・方法を身に付け、4技能のバランスの取れた力を育成する。
- ②多様な人々と協働するため、英語による対話や議論などのコミュニケーション活動を通じて、他者の意見を理解したり、自分の意見を相手に伝える力を育成する。
- ③他者や社会と関わるようにするために、主体的・対話的で協働的な学びを通じて自分の考えを深化させ、集団に貢献できる力を育成する。

2. 具体的取組

各年次団や教科全体において生徒に身に付けさせたい資質・能力について議論を深め、それを身に付けさせるための授業の進め方について情報収集に努めるとともに共通理解に基づいた実践を行う。特にまとまりのある英語を話したり書いたりする力について研究し、単元等の中で指導内容を関連づけつつ授業改善を行う。

3. 今後の取組

- 各年次英語科での定期的な打合せ等を通じて、授業の進め方について共通理解を深める。
- まとまりのある英語を話したり書いたりする活動を単元や題材のまとまりごとに各1回以上実施する。
- GTECの結果を基に現状を分析し、取組を改善する。
- Google Workspace for Education, 生成AIの活用をさらに推進する。

1. 教科で育成したい資質・能力

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的活動を通して、様々な人々と協働し、持続可能な社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

①コミュニケーションを通して、意見の共有や議論ができる力

②生涯を見通して生活の課題を主体的に解決する力

◇知識や概念・スキルを統合して活用・応用ができる（使いこなす・活かす）

◇教科と生活を結びつけて考え、生活の中で実践し評価・改善することができる

③社会に貢献しようとする力

2. 生活に係る教科として

「生きて働く知識・技能の修得」→「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成」
→「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の摘養」→『持続可能な社会を担う社会の一員』になる

3. 教科の具体的取組

○グループワークを行い、コミュニケーションを通して、意見の共有や議論をして発表させる。

○社会の変化に対応できるように、ICTを活用して社会問題との関連・問題点についての題材を提供し、主体的で論理的な考えをまとめさせる。

○現実の社会問題を提起し、ICTを活用して解決に向けた探究活動を行い発表させる。

○実生活に直結した生きる力（生活力）をつけさせるため、どんな場面で活かせるか考えさせる。

○授業を通して自分にできることを考えさせ、社会に貢献しようとする姿勢を養う。

4. ホームプロジェクト（課題解決学習）

○長期休業中に、「ホームプロジェクト」という個人で行う探究活動を通して生活改善に取り組み、クラスでグループ内発表・班の代表者による実践発表を行い、お互いに評価する。

○探究活動の進め方は、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現していく。持続可能な社会を構築するために、生活の課題を主体的に解決する力を養うことを目的とする。

5. 今後の取組

○教員評価、生徒自己評価に基づいた目標設定、授業展開を行う。

○ルーブリック自己評価を活用する。

1. 教科で育成したい資質・能力

①情報活用の実践力

◇身近な情報からデータを収集、作成を行ない、課題や目的に適した情報手段は何かを判断し、主体的に情報活用ができる力

②情報社会の課題・問題解決能力

◇情報活用の基礎や情報技術を学び、情報社会におけるコンピュータの仕組み、個人情報、ネットワーク等についての理解

③高度情報社会に参画する態度

◇身近な日常生活、社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割の理解

◇自らが情報を活用し、進化し続ける情報社会の創造に参画しようとする態度

2. 具体的取組（理論）

◇情報社会の課題や問題について考える機会をつくり、生徒が自ら思考し、情報社会の役割、解決に向けて理解する。中でも、コンピュータの仕組みを理解し、人と情報技術が関わっていく手立てを理解する。

○近代の情報技術やこれから予想される情報社会の課題・問題の事例をもとに、類似している物事や解決策をペア・グループで協議をさせる。

○コンピュータの仕組みを総体的に理解した上で、演習問題等を通じて、思考力の活用を行う。

3. 具体的取組（実習）

◇ICT 機器を通してインターネットを通じて情報を得ることや、表・グラフ作成、プログラミングを活用して、情報活用能力の着実な習得を目指す。

○Excel

関数を利用した表計算とグラフの作成、オープンデータをもとに統計処理を行い、身近なものから課題発見・解決することで情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する。

○プログラミング（プログラミング言語「Python」・・・オブジェクト指向プログラミング言語学習）

Google Colaboratory ツールを通じてプログラミングを行い、プログラムの流れや構造を学び、課題発見・解決を通してプログラミングを体験する。

4. 今後の取組

◇生成 AI の活用

○生成 AI によるプログラミングや課題解決を行い、ヒトと AI の融合で情報活用の推進を目指す。また、生成 AI の特徴や特性を理解した上で、情報モラルを学びながら活用を目指す。

◇プログラミング

○プログラミングの働きにより日常生活の便利さや豊かさがもたらされていることを理解し、プログラミング的思考などを育む。

○プログラミング的思考を通じて、プログラムだけでなく全ての物事に思考順序・手順があることを学び、普段の日常生活の物事の考え方へと活用する力を育む。

◇Google Workspace for Education

○Google Workspace for Education を活用した学習への取組や ICT 活用において知識の定着と情報機器を活用することで、情報化社会を自らが創造する力を育成する。

◇Microsoft 365

○Microsoft 365 を活用し、表計算ソフトウェアやプレゼンテーションソフトウェア、文書作成ソフトウェア等を用いて、実践的・体験的な学習活動を通して情報活用の実践力を育む。